

240610 名古屋城全体整備検討会議
名古屋市民オンブズマンによるメモ

14:00

保存整備課長 岡田：はじめる

蜂谷所長：ご出席いただきありがとうございます

4月から所長となった

昨年度4回会議した ありがとう

今年度もやる

構成員席上に西の丸毀損地点発掘調査書配布

全体整備検討会議報告

函面、遺物整理が終わった

文化庁、愛知県、有識者のご指導 再発防止策をしたい

議題 令和6年度事業予定はじめ2件

報告

岡田課長：出席者紹介

瀬口、丸山、赤羽、小濱、麓、三浦、藤井

渋谷、平澤、岡田

事務局紹介 教育委員会 名古屋城総合事務所

撮影、録音はここまで

資料紹介

構成員・オブザーバー 資料3 植栽管理計画案、

現状許可申請実績まとめ

進行 報告1 議事1, 2 報告2

名古屋城保存整備課 課長補佐 小村：去年検討内容 説明する

岡田課長：ご意見ご質問は

特にないか

報告1 終了

議事に移る 座長に一任

14:10

瀬口：事務局から説明

小村：資料 2-1

イメージ表

◎全体整備検討会議に付議する想定時期

瀬口：ご意見ご質問は

特にないか

赤羽：資料 2-1

イメージ図 調査センター設立 5 年目

学芸員の分担 携わるものはどれとどれか

副所長瀬川：ほとんどの事業が関わっている

天守台石垣対策 発掘、報告書とりまとめ

水堀 本年度行う

搦め手修復 工事中 立ち合い

植栽管理計画 直接は関わっていない 天然記念物があれば

園路改修も同じ

二の丸庭園 必要に応じて立ち合い

西の丸展示収蔵施設 工事始まったら立ち合い

表二の門 学芸員が主体

本丸御殿長期保全計画 学芸員が携わっていない 文化財があれば

石垣保存方針策定、重要文化財 学芸員が主体

赤羽：2-3 はかかわりがない

大半が関わる 全年にわたる

学芸員何人か知らないが、仕事が大変ではないか

計画を立ててやるのか

瀬川：学芸員 16 人

私も管理する立場 なんとかなるように組んでいる

業務 余裕があるとは言えないが、きちんと史跡、重要文化財

大勢をとっている

赤羽：16 人の専門別 考古、建造物は

瀬川：考古 10 美術 3 歴史文書 3 建造物 0

赤羽：相当ハードな仕事になるのでは
特にこれまでの考古学担当 途中でやめたり、休んだり
十分学芸員の働く条件を十分考慮して
全体会議に諮ることではないから？
城宝館の展示 美術が関わっている
載せるべきではないか

瀬川：分野別修正
考古10 美術2 歴史文書4 建造物0に訂正
城宝館 年間計画立てている 美術+文書
考古も一部展示している

赤羽：ありがとう

瀬口：調査研究センターができる前は何人いたのか
急増している印象
仕事の量と人員

瀬川：設立時に増やした
以前は2人 直前は3名

瀬口：5倍になっている
働き方をコントロールしないと
仕事を増やして過労にはいけない

麓：今年6月からはじまる本丸御殿長期保全計画策定とはなにか
どのような調査をどのような体制で行うのか
センターの内訳 考古・歴史・美術
建造物がないなか、どう調査されるのか

山本：管理活用課
本丸御殿長期保全計画
平成20年着工 3期に分けて
平成30年竣工 玄関・表書院 10年たっている
来年度に策定する予定
現況調査をメイン

体制 施工した職人に全面的調査を
長期保全計画に基づいた修復をしたい

麓：実際に復元工事 職人+営繕 文化財団体の協力を得ていた
今回は文化財団体は関わらないのか

山本：業務としては委託を考えている
職人、建設会社
個別に有識者と相談すると思う

瀬口：他には
今年度事業予定
なければ次の議題2

14:28

名古屋城石川：植栽管理計画
47回全体整備検討会議
57回全体整備検討会議
令和5年度 丸山副座長のご指導で植栽管理計画案作った
資料3
10年で一巡を目指している

瀬口：ご意見ご質問は

小濱：植栽管理系統的にやる
いまにはじまったことではない
従来はどうやってきたのか
場当たりの？

石川：高木の選定・伐採は計画的にはやってこなかった
その場その場で判断
低木 引き続き行う

小濱：従来は場当たりの
今後は計画的 PDCA サイクルに基づいて
植栽 はじめてなんでしょう？経験はあるのか

石川：名古屋城総合事務所は導入するのは初めて

小濱：PDCA サイクル 評価が大変
植栽の評価 季節によって変わる
効果を見極める 景観 伐採すれば改善するかもしれないが
季節の評価に反映させないと

石川：評価は難しい
有識者、日本庭園業者と相談したい

小濱：丁寧にやって

三浦：確認 1 頁右 計画範囲
二の丸庭園、二の丸南が入っていないのは管理団体が違うから？

石川：2 頁 6 特別管理 「整備中の範囲は対象から除く」
色が塗っていないのは整備中

管理活用課長三谷：白塗りは管理団体が別

三浦：愛知県の管理か

三谷：市緑政土木局
堀は市緑政土木局
現愛知県体育館は愛知県

三浦：史跡の指定範囲には入っている？

三谷：堀は入っている
体育館は未告示

三浦：堀は入っている？

三谷：入っている

三浦：名古屋市のほかの部局の管理

三谷：そう

三浦：部局が違ってても名古屋市 一体化
黒鉄門 雑草が茂っている
今後検討して
愛知県 体育館の南の堀は愛知県？

三谷：名古屋市
石垣は名古屋市

三浦：愛知県の管理は体育館の周りだけ
なぜ抜いてあるのか
ずさんなのは二の丸 南、東 りっぱな石垣だが木が張り出して
破損の可能性
きわめてまずいだろう
二の丸南、南 からたち、つつじ 管理がいいかげん
もさもさ 堀から見えない
りっぱな景観 堀の中
つつじ3-4メートルある
ほかの史跡 堀が見える
管理の仕方を考えて
計画範囲ではないところも計画して
今後検討していただきたい
日本一の景観 知っていただくために

三谷：貴重な意見

瀬口：他には
私から 1頁 理念2行目
「観光地及び都市公園としての魅力」結果
戦後整備をするために歴史と観光どっちをとったか
「観光」で鉄筋コンクリートで復元した
風致維持のため

三谷：理念記載
保存活用計画 平成30年 書いてある内容そのまま
若干植栽管理 ずれが生じた

瀬口：前のときに言わなかったか、聞いてくれなかったか
考え方
歴史的風致と景観は違うと考えている
見てくれがよければいい 歴史が入ってなくてもいい
歴史的
似ているけど違う
ある自治体 植栽管理 管理が大変 管理費が出ない
街路樹を間引きしている
景観はいいが、管理が大変 除去してしまう 伐採が行われている
持続的な管理 できたものの10-20年 切ってしまう？

三谷：それを踏まえて対応する

瀬口：他には
しっかり管理は重要
問題はコスト 無限にお金があるわけではない
コストと管理の実態 3年で回す 金がかっつく
なければ報告 願います

14:55

岡田：ありがとう 感謝申し上げる
報告 舟運事業社会実験

佐藤：3/22 乗ってもらった
概要 資料4 1ページ目
船着き場設計はじめる
辰之口から天守北
50名応募 1200名申し込み 44名乗船
10名+船頭+補助員
アンケート結果
魅力向上に効果があると考え
運用面
浮き桟橋は少し揺れる 揺れが少ない 座布団よい
座布団座りにくい
エンジンうるさい
水がきれいになるといい

石垣積み方、刻印、堀の歴史や櫓解説
普段見られない視点からの体験
西北隅櫓 下から見上げる 石落としの形状
石垣10メートルを超える 下から見上げる
参加者以外から 鳥、植生
今後 水堀関連遺構発掘調査

15:01

岡田：ご質問は
特にないか
報告は以上
予定は以上
オブザーバー参加 コメントは

渋谷：文化庁

年度のはじめ 今年度取り組まれる事業 ご紹介いただいた
多岐にわたる事業展開
どれくらいのスパンで伸びていくのか
過去案件に対して携わっていくのか
前後拝見出来たらより注力されているかがわかる
舟運社会実験 アンケートの意見 普段見られない視点
特別史跡魅力 興味深かった
魅力発信 重要な取り組み
今後史跡の利活用ツールになると感じた
植栽管理計画 多くの要素 サイクルを通じて計画的に進められる
議事でも出た 特別史跡名古屋城跡
三の丸土塁もある その植栽もすぐというわけではないが木も大きくなっている
都市機能かかわる いろんな管理しているところ
調整が難しい
土塁という文化財を守っていくためにも樹木をどう管理していくか
計画 ダイレクトではなく別途考えて
この会で話している 名古屋城跡範囲が広い
検討すべき点が多岐にわたる
仕事が大変 重々承知
特別史跡として後世に伝えてほしい 魅力を発信して
なかなか課題が多いと思うが取り組んで
今年

度もよろしく

岡田：関係局と連携しながら進めたい

平澤：文化庁

令和6年度 たくさんの事業進めて

着実に進めて

植栽 今回の意見を踏まえて資料2-1 12月部会で確定予定

いただいた論点重要 緑政土木局

名古屋城自体が緑の基本計画 どう位置づけられているか

ぜひ連携協調をはかって

水堀 植栽管理計画載っていない

全体の計画図 舟運 二の丸北側の堀も入っている

調整もある 行政分野協調することで

今日の会議 展示その他 できれば名古屋城の歴史文化

会議で主に議論 指定文化財の保存整備

もっと広い意味での文化 この会の主題として議論出来たら

逐次またご相談 大きな間違いのないようにすすめて

岡田：ご指導よろしく

岡田：愛知県

多数の議事 植栽管理計画 史跡や名勝 管理団体になっている

安全確保、景観、環境保全、歴史的風致

今年度 今後も踏まえてほかの植栽管理の模範にしてほしい

舟運社会実験 現実味を増している

大変な反響があって 好評

普段の視点とは違う

価値と魅力向上につながる

岡田：今後の事業に活かす

よろしく

おわり

15:12

